

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年5月7日

【評価実施概要】

事業所番号	2277100588		
法人名	社会福祉法人 慶成会		
事業所名	グループホーム 花みずき		
所在地 (電話番号)	浜松市西区大山町2882 (電話) 053-420-1001		
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年2月15日		

【情報提供票より】(19年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26 人	常勤 18 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	7.77 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,700 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	有(100,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	400 円	昼食 600 円
	夕食	600 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,600円		

(4) 利用者の概要(12月15日現在)

利用者人数	26 名	男性	0 名	女性	26 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	7 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	72 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	シティクリニック・ザザ	聖隷三方原病院	光和整形外科病院
---------	-------------	---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静岡県西部地域に初めて設立され開設8年目を迎えたホームである。市の郊外にあり、豊かな自然の中の広い敷地に3棟が程好い間隔の平屋作りである。オープンスペース・居室共にゆったりしており落ち着いた雰囲気がある。各々異なった顔を持つユニットごとに工夫があり手仕事の道具が無造作に置いてあり家庭らしい生活感がある。利用者が穏やかで職員が対応に配慮していることが汲み取れる。職員と管理者の関係が良好で課題をクリアしようという姿勢が見える。家族会の設置・介護計画更新時の面談・日常を伝える個別の手紙など、家族との関係にも留意している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の「地域との交流」は地域防災に参加し協力体制がとられるようになったり、小学生の福祉体験を受け入れるなど積極的な働きかけが行われている。同業者との勉強会にも取り組んでいる。また、研修の機会を確保するため、職員個々の意向の汲み取りを導入しローテーションを考えていく取り組みが行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員でパート別に取り組み自己評価表に記入し、各館別に話し合わせ意思を統一し管理者によって纏め上げられた。内容の振り返りも行われ、出来るところから改善するように検討しているなど職員が意識を持って進められた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>隔月に実施され、ホーム側から運営報告・事業計画・内部評価や外部評価の結果を受けての報告がなされている。出席者から助言を頂くなど双方向の意見交換がなされ運営に活かされているが、さらに市介護保険課からのホームに対する情報提供を求めたい。ホームは他地域に先がけて設立し実績があるため、それを活かせる場を期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会の開催・便りの発行・個別に日常の様子を伝える手紙などに工夫をし、不安への対応を丁寧に行っていることが汲み取れる。介護計画更新時には家族面談が行われ家族の希望を伺うと共に意見や苦情などを引き出せる機会が設けられている。書式・記録の管理が明確で共有され安心の声がある。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>郊外にあり隣家との距離がある中、交流が取れるよう努力しているが、さらに近隣の小学校に出かけたり訪問してもらう機会を作ったり、自治会・老人会との関係を深め利用者の生活の広がりが見られるように更なる働きかけを期待する。また、法人と連携を図り、ホームの開放を行い先発事業所として啓発活動などへの取り組みを期待したい。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは常に地域社会との連携を深めながら利用者の尊厳ある生活支援を掲げ自分が受けたいサービスの提供に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は理念を共有し、サービス提供における言葉かけや態度・記録に至るまで意識して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の協力下に小学生の福祉体験の受け入れ・花火・焼き芋のイベントを行い、地域包括と連携をとり活動の機会を増やしている。地元夫婦の入居をきっかけとして近隣との関係作りに努力している。	○	地域住民との更なる連携を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は分担しながら全体で取り組み意見を各々記入しまとめた結果を踏まえ具体的方法や手順について取り組む努力をしている。前回の評価は運営推進会議で報告し、運営に反映している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	花みずきの現状報告と地域や市の取り組みに配慮している。参加者には様々な方の出席を希望し、職員も各ユニットから1人出席できるよう工夫し、内容について他の職員に報告し、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議や行政との会において考え方や実態を報告し、意見をきいている。またサービス事業者連絡協議会の理事として市と共に連携をとって勉強会を発足するところまで進展している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	隔月の花みずき便りに加え、利用者一人ひとりご家族に写真のコピーを添え、日常の様子を伝える手紙を出している。随時の電話連絡や、家族会・面会時・ケアプラン更新時の面談などで情報提供や金銭管理を明示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	6ヵ月毎のケアプラン更新時に家族面談を行ったり、面会時に声をかけて、苦情窓口の説明がされている。また、運営推進会議に家族が交代で出席し、発言できる機会を多く設けている。家族会を年2回開催し、意見を伺う機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化し、馴染みの関係作りを重視している。交代が必要な場合は対応し、新人職員の配置や利用者のダメージを配慮している。離職については避けたい問題であり、働きやすい環境作りが課題である。	○	職員自身の問題も含め、働き続けられる環境作りを期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体として職員個々の目標達成度(自己申告)を人事考課とは別に作り、面接により職員の考え方や思いの汲み取りを導入している。また、外部研修の情報を流し、研修の機会を確保するよう努めている。	○	職員の定着度を上げ、職員が外部研修に参加できるような体制作りを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市担当窓口企画を持ち込み、浜松市介護サービス事業者連絡協会は相互見学研修を発足し、参加を決めている。事業者同志の協力によりサービスに活かす取り組みを目指している。	○	事業者連絡協で今年度スタートする相互見学研修参加で、更なる交流の機会を捉え、サービス向上への結び付けを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族に利用開始前の訪問を促し、入居後の生活がスムーズに移行できるよう支援している。	○	受け入れ体制(ショート利用・お試し体験)を整備し、取り組んでいく姿勢が期待できる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が出来るところはやって頂き、出来ないところを支援している。利用者と職員の会話は共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを利用し、利用者の思いや希望を受け止めている。人を見ていく積み重ねに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制でアセスメントを含め意見交換やカンファレンスを行っている。課題やケアのあり方について共有し介護計画を作成している。家族とも更新時ごとに面談し、要望・意見を取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケア会議で状況確認とモニタリングを行っている。状態の変化があれば必要な関係者と、その都度話し合いを行い、見直しを行っている。特記事項は個別連絡ノートに職員が個々に丁寧に記録し、共有し計画に反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、訪問看護ステーションと業務委託契約を結んでいる。週3回の定期訪問、24時間の電話対応、夜間・緊急時対応が可能である。ターミナルの実績もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望に添っている。特に無い場合は協力関係にある医師を紹介し、月2回の往診支援が受けられる体制を確保している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「重度化・終末期ケア対応指針」を説明し、文書で確認している。状況の変化に応じ文書の更新を行い、家族・関係者と話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「花みずき便り」の配布は家族限定としている。利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーを大切にしたい支援を行うことを常に心がけている。個人情報はパソコンに入力し、個人別にすぐに取り出せるよう記録している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントや日々の状況を把握し、テレビを見たい、おしゃべりしたい、ゆっくり横になりたい、手仕事など利用者の希望に添った過ごし方の支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の他の事業所と同様に委託し、給食委員を設置し、調整役を担っている。献立を工夫し栄養面ばかりでなく色目もよく、職員と利用者が同じ物を一緒に食べることによって支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	重度化に伴い浴室内を改造するなど心地よく入浴できるように準備している。また、同姓介助の希望にも対処するなど寛いで入浴を楽しめるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る所で力を発揮してもらえるよう支援を行っている。買い物に出かける際には見守りの中で支払いを行い、利用者が欲しいものを買っている。得意の針仕事が出来よう手近な所に道具を準備し、終了時には針の本数を数えるなど支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の車が使用可能時には買い物やドライブに出かけている。広い庭に出て外気浴を楽しんでいる。	○	設立時より重度化が進み外出支援が困難ではあるが、軽度の利用者への外出支援を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の動きを把握しており、日中は玄関の鍵を掛けないことを実践している。居室は内側からの施錠構造となっている。無断外出がないように法人全体の協力体制が出来ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器・防災ベルなどを含む防火避難訓練を行っている。同じ法人の事業所が至近距離にあり協力体制が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設法人の管理栄養士が行い、月1回の給食会議で検討し、利用者の状態に合った食事を提供している。職員は栄養バランスを把握し、個々の水分・食事の摂取量を記録し、情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは清潔に保たれている。間取りもゆったりしており、居間・食堂が中庭に面している。照明に工夫があり、外光もブラインド調節が出来る。夏場はヨシズを用い、雑音に配慮し、落ち着いた空間となるよう工夫している。ソファ・ベンチがあり寛ぎの場を確保している。必要なもの(新聞・裁縫道具・折り紙など)は目に付く所に準備ができています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物品・家財道具の持ち込みは自由で本人・家族が相談の上、使い慣れた馴染みの物を用意している。居室は広く個々に合った配慮がなされ、家で過ごしているような居心地よく過ごせるよう工夫を行っている。		